

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	林 裕二	職名	教授	学位	修士 (文学) (西南学院大学 1993 年)
----	------	----	----	----	-------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
英語学	統語論、会話分析、文体論

研 究 課 題
英語学の領域で、特に会話分析、談話分析を専門とする。ビジネスコミュニケーションにおけるレターや文学作品、映画(脚本)を言語資料として、人間関係をどのように言語が反映するかを考察する。それらの分野の知見を援用した創作活動として、詩・英語俳句等にも取り組む。

担 当 授 業 科 目
人文学入門 (前期) (英語学科・観光文化学科) 初年次セミナー I (前期) (観光文化学科) 基礎英語 (前期) (観光文化学科) マルチメディアイングリッシュ基礎 (前期) (観光文化学科) TOEIC演習 A (前期) (観光文化学科) TOEIC演習 B (後期) (観光文化学科) マルチメディアイングリッシュ応用 (後期) (観光文化学科) 専門演習 II (通年) (観光文化学科) 卒業研究 (通年) (観光文化学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【人文学入門 (前期) (英語学科・観光文化学科)】</p> <p>人文学部の専門科目で 2018 年度カリキュラムの新規科目 (90 分 8 回) の二年目にあたる。人文学部の担当教員がそれぞれ原則として一コマ担当する。人文学部での学びの導入として、まずは一般論的な人文学の枠組み、そして本学における人文学関連の学びの枠組みを知ることが目的とする。2018 年度のリフレクションから、この授業全体の目的がよりわかりやすくなるように、出席や提出物の約束事がシラバス (配布) にどのように示され、それをどう理解するかにも触れた。</p>
<p>授業科目名【初年次セミナー I (前期) (観光文化学科)】</p> <p>1 回目は学部全体で受講し、2 回目以降は学科の専任教員が担当する。専任教員 7 人で 1 学年の学生を均等に割り振りした少人数のクラス編成として、一人の教員が残りの 14 回を担当。まずは学生間の人間関係を作らせ、学習集団への帰属意識をもたせようとした。そのための手法として、座学の中にもペア学習、グループワークを取り入れた。また学科行事として 2 回の授業を使い、ディベート大会を行った。その際に授業で学んだ文献の探し方、わかりやすい発表のしかたを実践させることで、コミュニケーション能力の高め方を学び、グループとしての自主的な学習の動機付けを高めた。</p>
<p>授業科目名【基礎英語 (前期) (観光文化学科)】</p> <p>観光文化学科の専門必修科目で 2018 年度カリキュラムの新規科目の 2 年目である。1 年次の学年を二分割したサイズである。授業では特にリスニング、読解力を伸ばすことを目的とした。基礎的な文法が弱いところは、丁寧に繰り返し説明をした。学習活動として、E-learning の CHleru の学習と英語の多読がある。両方とも授業外の活動としており、オリエンテーション期間中にそれぞれの活動についての指導を行った。また CHleru の学習と英語の多読については、A、B のクラスを問わずに説明をして対応した。</p>

<p>授業科目名【マルチメディアイングリッシュ基礎（前期）（観光文化学科）】</p> <p>2019年度の新規科目。E-Learning のCHeru(チエル)を使うマルチメディア教室での必修科目。個々の学生のペースに応じて、リスニング、語彙力、読解力を高めるトレーニングをした。また学習時間を担保できるように、ほぼ毎回課題を出し、次回授業で理解度を確認した。ネット環境があれば、どこからでも教材は利用可能であり、学生自身が自分の通算学習時間を知ることができるので、学習マイルの目標を持たせて計画的に取り組めるようにした。授業最初に小テストを毎回行い、遅刻者が出ないようにした。</p>
<p>授業科目名【TOEIC演習A（前期）（観光文化学科）】</p> <p>TOEIC 演習A～Eシリーズの中での最も基本的なレベルである。基本的な文法力を養うことが必要であり、そこを強化しながら、さらに基礎的なリスニングや読解力を伸ばそうとして、少人数を生かして、こまめに質問をして答えさせるパターンを繰り返し行った。</p>
<p>授業科目名【TOEIC演習B（後期）（観光文化学科）】</p> <p>受講生の三分の二が、前期のTOEIC演習Aと重なっていた。基本的な文法力の底上げが必要だった。3名という少人数を活かして、こまめに質問をして答えさせるパターンを繰り返し行った。説明、理解、確認、定着というパターンを繰り返し行わせた。学生にも板書をさせて、ライティングの確認もさせた。</p>
<p>授業科目名【マルチメディアイングリッシュ応用（後期）（観光文化学科）】</p> <p>前期のマルチメディアイングリッシュ基礎と同じ教室であり、前期のリフレクションから次のことを工夫した。学生の座席配置は、教卓背面のホワイトボードを位置的にも距離的にも、必ず見える位置になっているわけではない。そのホワイトボードを多用せずに、教卓の背後の左右のスクリーンを利用したTTPによる提示を中心にした。</p>
<p>授業科目名【専門演習Ⅱ（通年）（観光文化学科）】</p> <p>年間を通して複数回、学生からの授業についてのコメント、要望を得た。それをシラバスにも沿うような形でできる限り取り入れて、最終的には学生の利益（卒業論文を仕上げることに）につながるように指導をした。また、学外授業として、小倉都心部での質的研究のフィールドワークを実際に行い、4年次の卒業研究に備えさせた。</p>
<p>授業科目名【卒業研究（通年）（観光文化学科）】</p> <p>入学年度が2つの年度に別れる5名からなる少人数の授業だった。卒論指導については、学年当初は全体指導を中心とした。そして年度が進むにつれて、個別指導の時間を増やしながら、卒論制作に取り組みさせた。質的研究を取り入れることを3年時の最初には伝えていたが、どうしても就職活動との関係で取り組みが遅くなる傾向があるが、夏季休暇の終わりからは分析へと移る段階にはいるように指導した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) (旧日本商業英語学会)	九州・山口支部会長（2010年2月～2018年9月） 本部理事（2015年11月～2019年10月） 研究年報査読委員(2016年3月～現在に至る)	1993年6月～現在に至る
映像メディア英語教育学会(AEM) (旧映画英語教育学会)	九州支部会計監査（2006年1月～2011年12月） 紀要査読委員(2010年4月～2012年3月) 紀要査読委員（2018年1月～現在に至る） 九州支部副支部長(2008年10月～	1994年2月～現在に至る

日本コミュニケーション学会	2011年10月) 九州支部運営委員(2012年1月～ 現在に至る)	1994年12月～2015年3月
日本人類言語学会 英語コーパス学会 日本比較文化学会	九州支部紀要編集委員(2011年9月 ～2015年6月)	2002年10月～2004年3月 2003年4月～2009年3月 2010年2月～現在に至る
万葉学会	九州支部会計監査(2013年3月～現 在に至る) 本部事務局長・理事	2018年5月～現在に至る 2014年2月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の 別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) 日本語と英語の翻訳比較 による比較文化研究の潮流	単	2019.5	日本比較文化学会 第41回全国大会・2019 年度国際学術会議 (於：同志社大学今出川 キャンパス)	シンポジウムテーマ：比較文 化の教育と研究の新潮流と して、6名のパネリスト(日 本、韓国、台湾)の一人とし て提言した。提言内容は、主 に日英の翻訳の市場性の影 響について。
ノルウェイの森の一考察 —揺れ動く心—	単	2019.7	2019年第8回村上春樹 国際シンポジウム (於：北海道大学札幌キ ャンパス)	大会テーマ：村上春樹文学に おける「移動」(Movement) であり、主人公と彼を巡る登 場人物たちの心の深層の揺れ が描き出される手法を分析し た。  教育研究実績 総数 (2020. 3.31 現在) 著 書 0 (内訳 単0、共0) 学術論文 0 (内訳 単0、共0) 翻 訳 0 (内訳 単0、共0) 学会発表 2 (内訳 単2、共0)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

人文学部長 2018年4月1日～現在に至る  
公開講座委員長 2018年4月1日～2020年3月